

令和3年度 第4回 稲美町地域公共交通活性化協議会 議事概要

開催日時	令和3年10月5日（火）午後2時00分～午後4時10分
開催場所	加古大池管理棟 交流室
出席者	委員16名、オブザーバー4名（うち随員2名）、事務局5名、傍聴3名
議事次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 会長のあいさつ 3. 議事 <ol style="list-style-type: none"> ①住民アンケート調査の結果について ②稲美町デマンド型乗合タクシー「あいのりいなみ」の利用状況について ③稲美町地域公共交通計画（素案）について 4. その他 5. 閉会
議事概要	<p>①住民アンケート調査の結果について</p> <p>■別添 路線バス利用者アンケート調査の結果について【概要版】について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議長「加古川駅～稲美町役場前・六甲バター北線では高齢者の回答者が多くなっており、また通勤通学が少なく、路線バスが無くなった場合は目的地に行けなくて困るという回答が多くなっているが、この結果をどのように解釈しているか。」 ・事務局「この路線は病院等へ行かれる高齢者の利用が多くなっており、その傾向が出ていると思われる。」 ・議長「この路線は便数が少ないわりに高齢の方が使われており、移動が大変であるという特徴が出ているのではないかと思う。」 ・委員「加古川駅～稲美町役場前・六甲バター北線は路線図のとおり運行しているのか。」 ・神姫バス（岩崎氏）「路線図のとおり運行している。1日に2往復ではあるが、稲美町役場前～六甲バター北を循環するような形で運行している。」 ・委員「バス停に、この路線が加古川駅に接続しているという情報を時刻表とともに載せて欲しい。」 ・議長「地域公共交通計画にはバス待合環境の改善の事業も含まれているため、このような意見も参考になるのではないか。」 <p>■別添 住民アンケート調査結果【概要版】について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会長「あいのりいなみ利用時の問題点として「町外に行けない」と回答されている方は、どこで乗降されているのか。」 ・事務局「このアンケート調査は、対象者の住所に調査票を送付する形式で実施しているため、この設問と乗降場所の情報を直接紐づけることはできない。しかし、このアンケートには移動先を回答してもらう設問もあるため、間接的な集計にはなるが、この設問

の回答と合わせて「町外に行けない」と回答されている方の乗降場所について今後分析していきたい。」

- ・議長「ゾーンごとに回答を分析することで利用状況が見えやすくなるので、良ければ追加で分析をしてみてはどうか。また、公共交通の対象者は高齢者だけでなく、送迎してもらっている方も含まれることにも留意するべきである。さらに、料金が安ければ多少不便でも利用されることや、町外である東加古川駅へのデマンドの運行が難しいことなども踏まえて検討していく必要がある。アンケート調査結果から、条件が合えば利用したい方がいることが分かるが、どのような条件にすれば良いのか皆で検討して計画に反映できれば良いと思う。」

②稲美町デマンド型乗合タクシー「あいのりいなみ」の利用状況について

- ・別添 稲美町デマンド型乗合タクシー「あいのりいなみ」社会実験事業の利用状況について について説明
- ・議長「デマンドは目的地、利用日、利用人数など利用の形が見えやすいため、都度改良を加えていくことが多い。今回の結果も利用の形がよく見えていると思う。」
- ・委員「あいのりいなみの社会実験はコロナ禍の影響をどれだけ受けたのか。コロナ禍がなければどの程度利用されたかと想定されるのか。」
- ・事務局「コロナ禍の影響で社会実験前の PR が十分にできなかったことが前提としてあるが、あいのりいなみを運行しているルミナスタクシーへのヒアリング調査から、毎日行っていた買物の頻度が減った等外出を控えていることが分かった。さらに、デマンドの運行を行っている近隣の自治体でも、稲美町と同様に PR が十分にできず、住民の移動も減少している状況である。当初は1日4便で2台ずつ運行することにより賄えるだけの利用を想定していたが、現在はその半分程度の利用であるため、もっと利用して頂きたいと考えている。」
- ・委員「6月以降は利用が増加してきているため、期待が持てる。感染拡大も収まってきているため、9月や10月の利用がどうなるのか見ていきたい。」
- ・会長「4月までの利用実績結果には記載されていた利用者の声が、今回は記載されていないのはなぜか。」
- ・事務局「今年の4月までは利用者と接して意見を伺う機会があったため、5月の協議会資料には利用者の声を載せていたが、4月以降は利用者と接する機会が無く、意見を収集できなかったため今回は省いている。」
- ・議長「目的施設としては医療施設が多く、目的地としては国岡が多いということは、稲美町の中心部の医療施設等への移動に多く利用されているのか。」
- ・事務局「国岡にある医療施設や役場、国安にあるいなみ文化の森への移動に多く利用されている。また、各地域の病院等の施設への移動にも利用されている。」

- ・議長「行きの利用に比べて帰りの利用が少なくなっているのは、帰りは路線バスやタクシー、送迎等の移動方法を利用される方がいるためなのか。」
- ・事務局「あいのりいなみが前日予約を行っている関係で、帰りの時間が読めないため帰りの予約がしにくいという声はある。そのため、行きはあいのりいなみを利用し、帰りはバス・タクシー券を利用されている方が多いと聞いている。」
- ・議長「火曜日の利用が多いのはなぜか。」
- ・事務局「月曜日にあいのりいなみを利用するには、前週の金曜日に予約する必要があるため、月曜日の利用が少なくなり、代わりに月曜日に前日予約をする火曜日の利用が増えているのではないかと考えている。」
- ・議長「予約の方法が課題である。」

③稲美町地域公共交通計画（素案）について

- ・別添 稲美町地域公共交通計画（素案） について説明
- ・議長「p. 40 の「5.2 各種施策・事業」の内容は、バス待合所の改善などのように地道に実施していくことや、ひとの心を変えること、IT化を進めることなどがバランスよく盛り込まれていると思う。各種施策・事業のシートが全て青色で着色されているため、計画目標に合わせて着色した方が良い。」
- ・委員「p. 37 の「計画目標3」の「支える仕組みづくり」とは具体的にはどのようなものか。」
- ・事務局「現状では自家用車の利用が多いため、公共交通の利用者を増やすには、公共交通を充実させるだけでなく、住民の公共交通に対する考え方を変えていただく必要がある。そのために、公共交通の利用促進を行うとともに、小学生や高齢者をはじめとした対象にモビリティ・マネジメントを実施することで、意識改革を進める。」
- ・議長「「支える仕組みづくり」とは、公共交通の利用を町全体へ呼びかけるだけでなく、ひとりひとりに働きかけることによって促進していくものである。これら両方を行っていくことが伝わるよう記載することを検討してみても良いのではないか。」
- ・委員「p. 49 の「新技術の活用」に記載されている「自動運転や運転支援に対する技術」は、いつ頃からの導入を想定しているか。」
- ・事務局「全国で実施されている実証実験の状況を鑑みても、今すぐ路線バス運行を自動化することはできない状況であり、現状では導入がいつ頃からはなるか想定するのは難しい。一方で、技術革新は進んでいるため、新技術を活用した公共交通も考えなければならぬということで計画書に記載している。」
- ・議長「新技術のうち、デマンドの予約をスマートフォンで可能にすることや、路線バスの時刻表を簡単に表示させること、地域の買物情報を表示させることなどは今でも実現可能である。自動運転や運転支援などについては、10年以内に何か技術革新が起こることを期待しているという意味合いで計画書に記載するということであろう。」

	<ul style="list-style-type: none">・副会長「p. 48 の「モビリティ・マネジメント参加者数（年間）」の目標値はイベントの参加人数ということで良いのか。」・事務局「そのとおり。」・副会長「バス待合所やバス車内の利用環境は良くなっていると感じるが、バス停までの道路整備も合わせて実施していく必要がある。現状ではバス停までの道路が整備されておらず危険な箇所もある。また、昨今の SDGs の視点を踏まえると、地域公共交通計画も関係するのではないか。」・事務局「SDGs については、検討させていただきたい。」 <p>4. その他について</p> <ul style="list-style-type: none">・事務局「今回の内容を踏まえた上で再度協議会を開催したいと考えている。また、その後パブリックコメントを実施し、その内容を受けて最後の協議会を開催したいと考えている。」・議長「兵庫県バス協会より、県民交流バスの募集や高齢者運転免許自主返納サポート制度、都市農村交流バス助成制度についての資料提供があった。詳細は別添 追加資料 を見ていただければと思う。」
--	--